

ポイント

- ◆ 売上高対前年同期比は-47.5ポイントと5.2ポイント回復（2期連続回復）
製造業（過去10年間で最大の改善幅）以外は苦戦
卸売、小売、サービス業は緊急事態宣言・時短要請の影響があらわれたか
地域の景気回復は全国より四半期ずれ込んだ可能性
- ◆ 売上見通し（来期対前年同期）は3期連続改善（増加・不変が減少を上回る）
- ◆ 採算性は-41.3ポイントと厳しいが、3期連続改善（+12.4）

○改善・回復の動きは本物か

売上高対前年同期比（全産業）は、大きく改善した前回調査(+18.1)と比較すると小幅の改善(+5.2)にとどまった。(表①・グラフ①)今調査において改善の原動力となったのは製造業で過去10年間で最大の改善幅(+23.1)であった。その中でもアルミ・機械・化学・電気のグループの改善幅が大きい(+24.5)。一方、卸売、小売、サービス業では、前回調査から一転して悪化に転じた。昨年末のGOTO事業の一時停止発表や国の緊急事態宣言発出、県の飲食店等への時短要請などマイナス要因が複数重なったことからこの結果は予想されていたが、地域経済の回復を足踏みさせることとなった可能性がある。

全国の動きとの比較では、高岡地域の回復が四半期ほど遅れていたことが見て取れる。全国、中部地方の数値を見ると2020年度第1四半期(4-6月)を底として改善しているが、当地域は第2四半期(7-9月)となっている。(グラフA)その差は小さなものであるが、中部地方の製造業の動きとは一致していることから、国内製造業でも製品分野によっては回復の動きが違いがあったということであろう。

全体としては前回調査に続き2期連続で改善が見られる結果となり、力強いとはまだまだ言えないがこの地域が新型コロナウイルスの影響からの回復の途についているのであると考えたい。

○IT活用の広がり

当所が2018年1月に策定した地域振興プランでは、交流人口の拡大やワークライフバランス先進都市の実現など5つの戦略に基づきそれぞれ目標が設定された。その一つである戦略2「第4次産業革命の実現を柱とする地域イノベーションの促進」では、下記の数値があげられている。

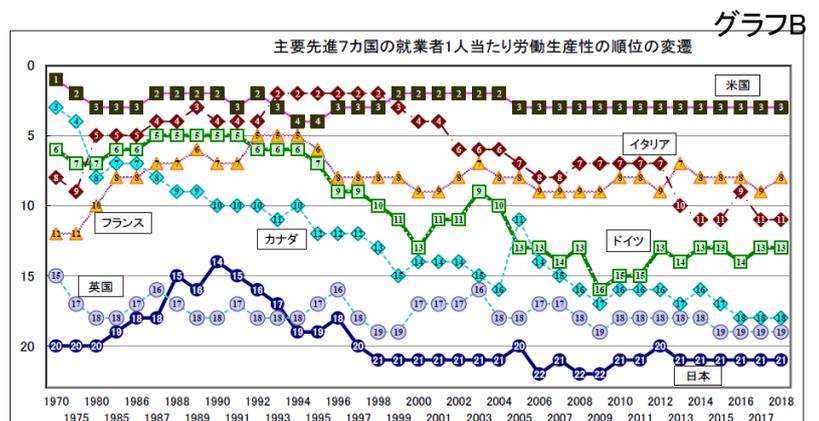
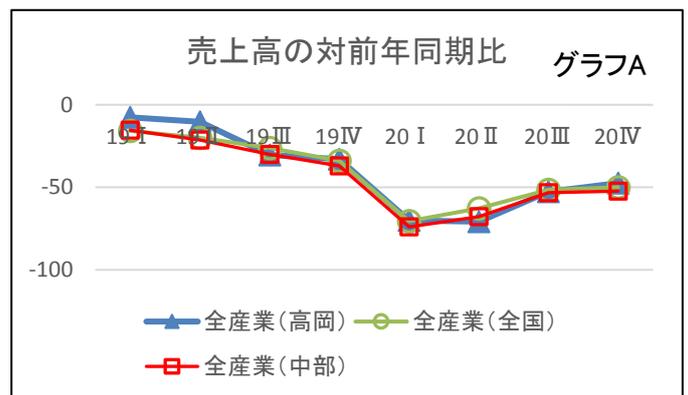
目標 IT関連支援数 2020年 100件

2020年度の当所におけるIT関連支援の実績は169件であった。支援のうち補助金などを活用したIT支援(計画策定等)は100件(2019年25件)である。当所の支援としては急増した形であるが、新型コロナウイルス対策として実施された各種補助・助成が企業の取り組みを促したのは間違いのないだろう。

支援内容としては、AIやRPA導入などといった高度なIT活用は見られず、比較的導入しやすい生産性向上やEC構築、リモート商談などの支援にとどまっている。

右図は、主要先進国と比較した就業者1人当たり労働生産性の順位の変遷であるが、我が国はほぼ最下位となっている。原因としては、労働時間の長さやIT導入の遅れなどがあげられている。多くの業種で問題となっている人手不足や技術者の高齢化などに対してもIT技術の活用・導入による生産性向上は不可避であろう。

当所としても地域企業の生産性向上の取り組み支援を一層進めなければならない。



公益財団法人 日本生産性本部「労働生産性の国際比較2019」より

[地域経済動向調査概要]

調査月 令和3年1月～令和3年3月 (基準日3月1日)

対象 高岡市内事業所 340社

回答数 160社 (回収率 47.1%)

回答業種内訳及び構成比

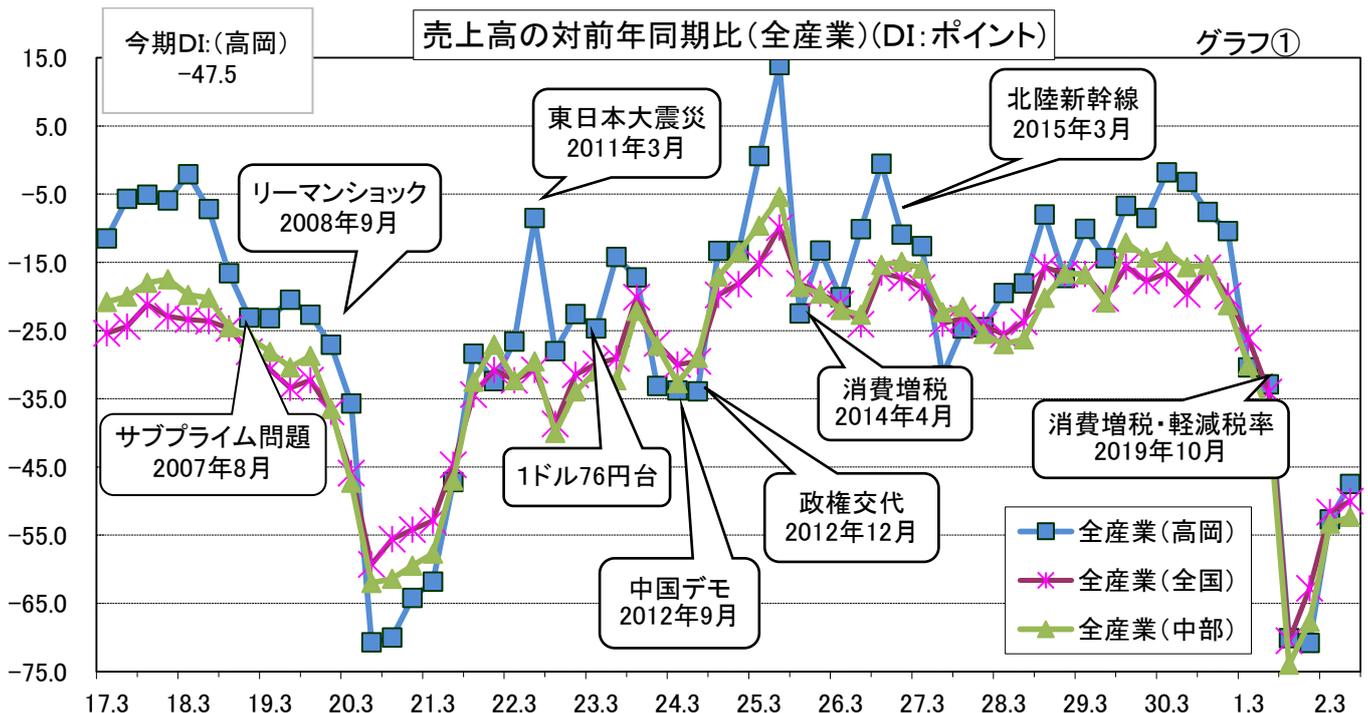
	建設	製造	卸売	小売	サービス	全体
回答数	16社	76社	27社	18社	23社	160社
%	10.0%	47.5%	16.9%	11.3%	14.4%	100.0%

■1.売上高の対前年同期比

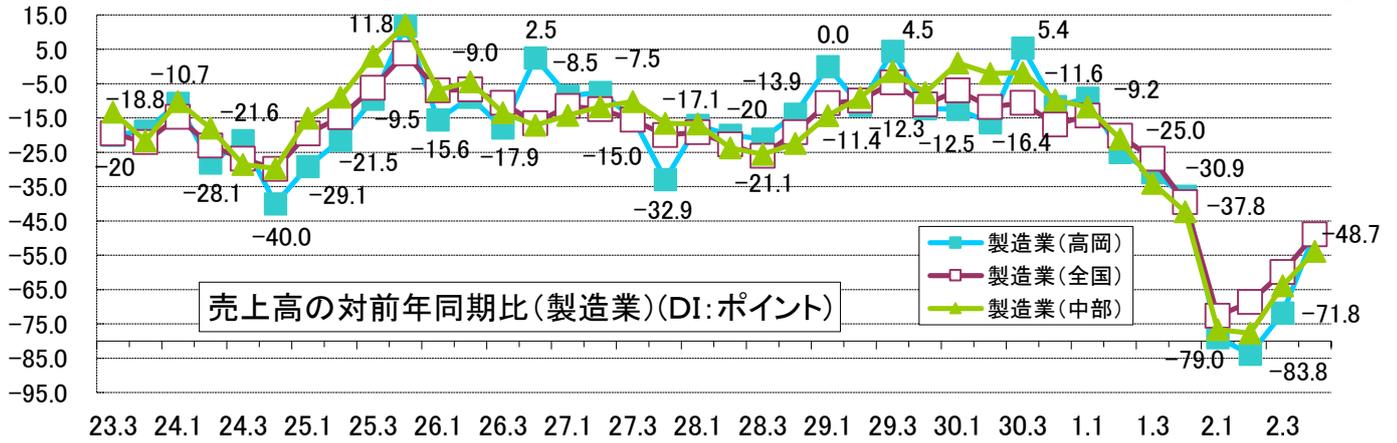
(%) (ポイント)

表①

	増加	不変	減少	DI	前回DI	変化	全国DI	
業	建設業	18.8	31.3	50.0	-31.3	-31.3	0.1	-24.9
	総合・土木	20.0	40.0	40.0	-20.0	-30.0	10.0	-
	建築・職別工事	16.7	16.7	66.7	-50.0	-33.3	-16.7	-
	製造業	15.8	19.7	64.5	-48.7	-71.8	23.1	-48.9
	銅器・漆器	13.3	33.3	53.3	-40.0	-61.5	21.5	-
	アルミ・機械・化学・電気	17.1	17.1	65.9	-48.8	-73.3	24.5	-
	食品・繊維・紙・他	11.1	16.7	72.2	-61.1	-83.3	22.2	-
	卸売業	14.8	14.8	70.4	-55.6	-46.7	-8.9	-48.7
	銅器・漆器	0.0	0.0	100.0	-100.0	-33.3	-66.7	-
その他	15.0	20.0	65.0	-50.0	-56.5	6.5	-	
種	小売業	11.1	22.2	66.7	-55.6	-33.3	-22.3	-52.6
	食品・衣料・雑貨	16.7	16.7	66.7	-50.0	-50.0	0.0	-
	電化製品・文化用品・他	8.3	25.0	66.7	-58.3	-25.0	-33.3	-
	サービス業	17.4	26.1	56.5	-39.1	-26.9	-12.2	-59.0
全産業	15.6	21.3	63.1	-47.5	-52.7	5.2	-50.0	

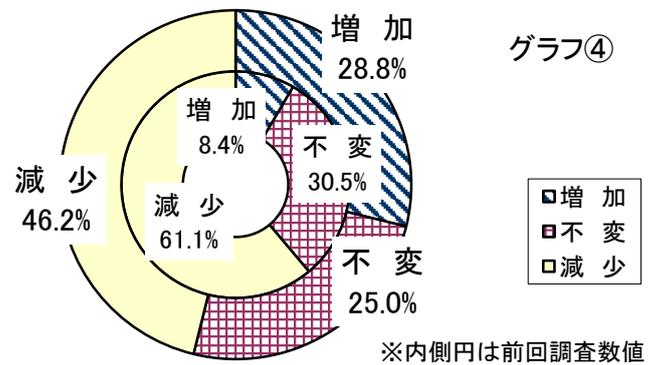
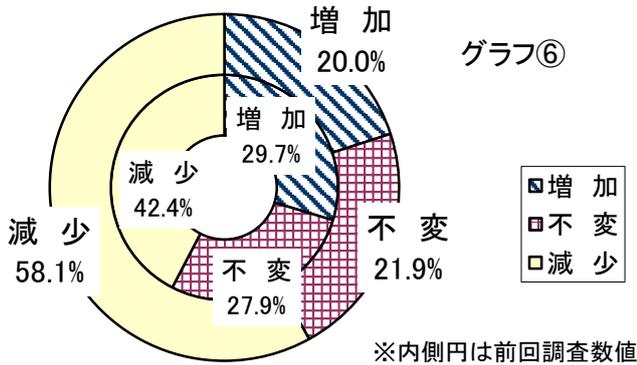


グラフ②



■ 2-1. 売上高の対前期比

■ 2-2. 売上高の来期見通し(対前年同期比)

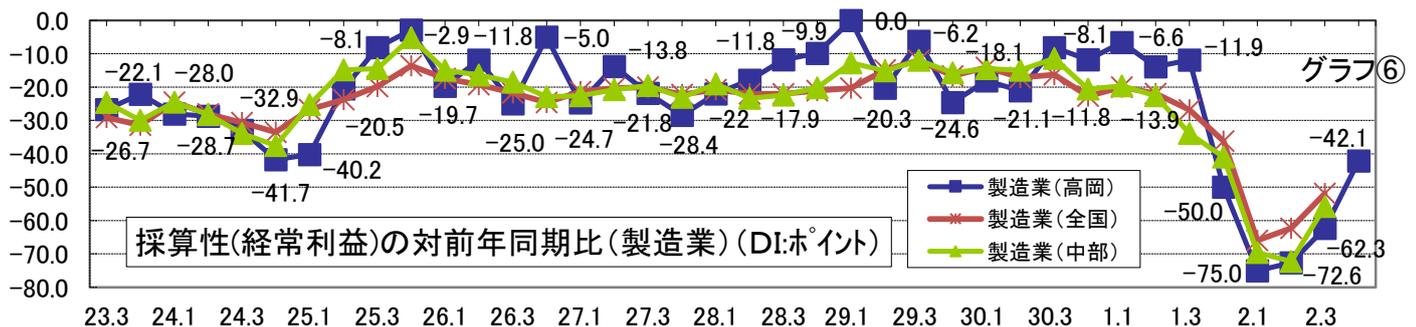
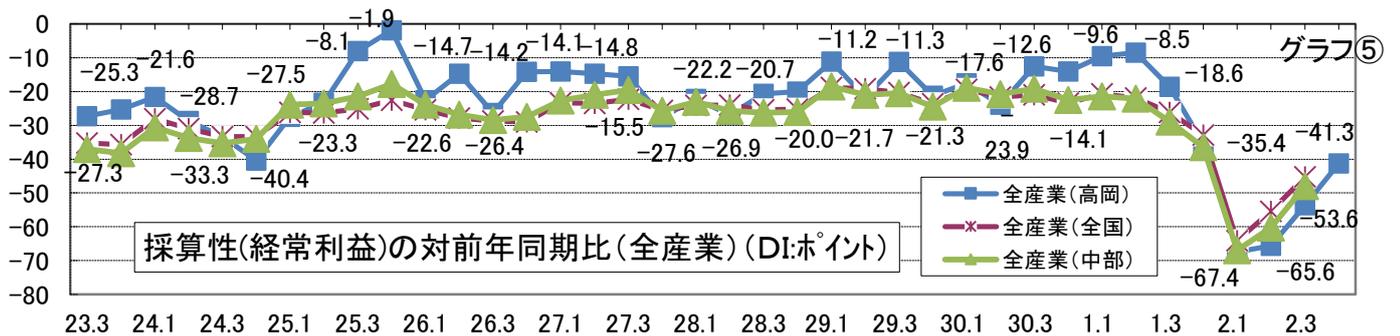


■ 3. 採算性(経常利益)の対前年同期比(%) (ポイント)

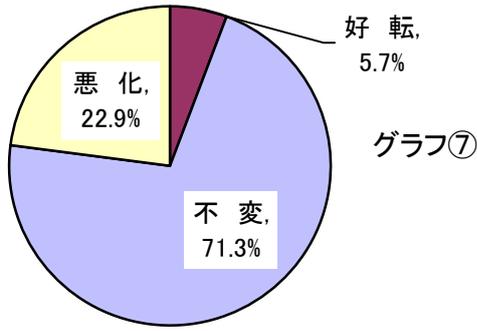
※全国DIは前回調査分

業種		採算性			DI	前回DI	変化	全国DI
		好転	不変	悪化				
業種	建設業	12.5	50.0	37.5	-25.0	-31.3	6.3	-28.1
	製造業	11.8	34.2	53.9	-42.1	-62.3	20.2	-51.9
	卸売業	11.1	25.9	63.0	-51.9	-51.7	-0.2	-46.4
	小売業	11.1	44.4	44.4	-33.3	-50.0	16.7	-44.6
	サービス業	4.3	47.8	47.8	-43.5	-46.2	2.7	-47.3
	全産業	10.6	37.5	51.9	-41.3	-53.6	12.4	-45.2

表②



■ 4. 資金繰り(前年同期比)

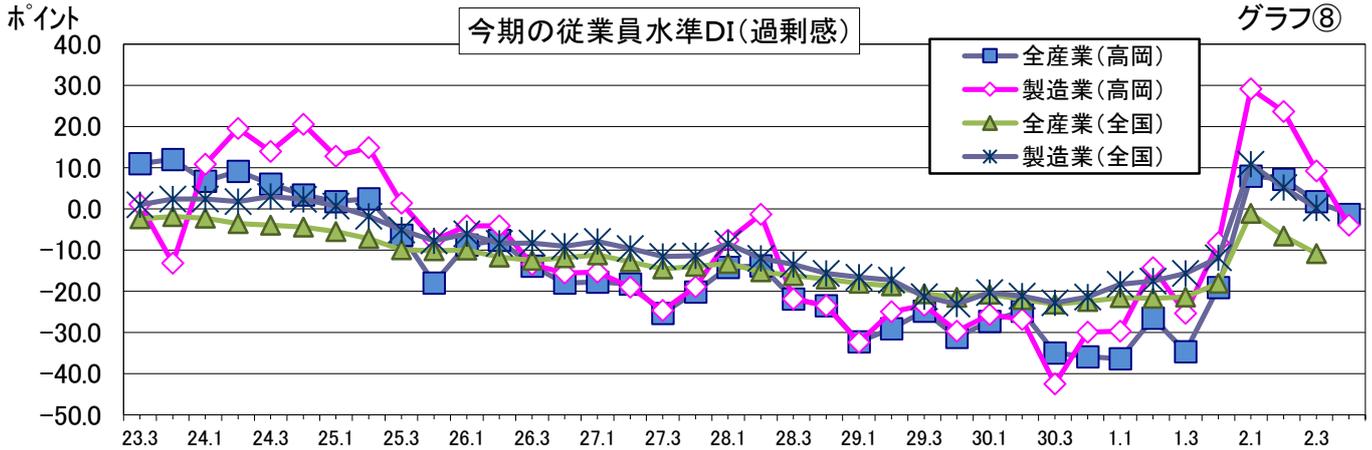


資金繰り(前年同期比)の推移

	好転	悪化	DI
2.4	5.7%	22.9%	-17.2
2.3	5.5%	28.7%	-23.2
2.2	2.0%	29.4%	-27.5
2.1	3.4%	38.6%	-35.2
1.4	5.8%	19.5%	-13.6
1.3	4.2%	9.8%	-5.6
1.2	6.6%	8.6%	-2.0
1.1	7.8%	8.5%	-0.7
30.4	6.4%	12.2%	-5.8

表③

■ 5. 今期の従業員水準(今期の過剰感)



従業員水準(過剰感)の推移

表④

(ポイント)

	R1.1	R1.2	R1.3	R1.4	R2.1	R2.2	R2.3	R2.4
建設業	-76.5	-86.7	-70.6	-55.6	-61.1	-31.3	-37.5	-18.8
製造業	-29.7	-14.3	-25.4	-8.2	29.1	23.6	9.2	-4.0
卸売業	-25.0	-3.6	-29.6	4.2	16.1	0.0	20.0	14.8
小売業	-29.4	-40.0	-21.4	-17.6	4.8	5.6	-11.8	5.9
サービス業	-45.5	-43.5	-50.0	-48.0	-16.0	-10.0	-7.7	-4.3
全産業	-36.4	-26.5	-34.7	-19.1	8.0	7.2	1.8	-1.3

※数字が小さいほど不足感が強い
複数回答

■ 6. 直面している経営上の問題(各業種の回答上位)

建設業	①従業員の確保難	20.0%
	①民間需要の停滞	20.0%
	③熟練技術者の確保難	15.6%
製造業	①需要の停滞	20.8%
	②原材料価格の上昇	13.5%
	③従業員の確保難	12.0%
卸売業	①需要の停滞	29.0%
	②従業員の確保難	10.1%
	③店舗・倉庫の狭隘・老朽化	7.3%
小売業	①需要の停滞	20.4%
	②消費者ニーズの変化への対応	18.4%
	③販売単価の低下・上昇難	16.3%
サービス業	①利用料金の低下・上昇難	16.7%
	②需要の停滞	14.6%
	③店舗・倉庫の狭隘・老朽化	12.5%

表⑤